

高病原性鳥インフルエンザの防疫の徹底を!!

高病原性鳥インフルエンザウイルスにアライグマが感染

先日、国内の一部の野生のアライグマが高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)に感染していたことが分かりました。

アライグマの捕獲地域は西日本の2地域と東日本の1地域で、988頭のうち10頭分の血液からウイルスに感染していたことを示す抗体が検出されました。なお、3地域のうち2地域はこれまで鶏や野鳥の感染が報告されていません。

疫学研究チームによると、宮崎県で高病原性鳥インフルエンザが発生する1年近く前には、すでにウイルスは日本に侵入しており、感染した渡り鳥などをアライグマが捕食して感染した可能性があるとのことです。

これはアライグマをはじめとする**野生動物が鶏舎内に侵入することで、ウイルスを持ち込む可能性が高い**ことを示しています。

アライグマはペットとして輸入されたものが野生化し、全国的に分布域が拡大しています。夜行性、雑食性、木登りが得意で建物をねぐらとすることなどの特徴が知られています。このため、鶏舎へも高所から侵入する可能性があります。

鶏舎の隙間をふさぐ他、2cm角以下の防鳥ネットを隙間ができないように張り、破れているところは補修しましょう。

農場周囲への石灰散布(1~3m幅)は消毒効果だけでなく農場内への野生動物の侵入を防ぐ効果もあります。

アライグマを確認した場合には触れずに、市町村等へ駆除の連絡をしてください。



鶏の急な死亡率の増加など、異常がみられる場合はすぐに家畜保健衛生所までご連絡下さい。